# 2023年度　聖マリアンナ医科大学看護専門学校
# 学校関係者評価委員会概要と評価結果（報告書）

学校関係者評価委員長
塚本　孝枝

## １．　第６回学校関係者評価会議の概要

### １．１　開催日程・場所

（１）日時　2024年３月８日（金）　13時～16時
（２）場所　聖マリアンナ医科大学看護専門学校　１階６号教室

### １．２　委員（12名）

委員長　聖マリアンナ医科大学病院看護部　副部長　塚本孝枝
委員　＜学校関係者＞
　高等学校校長　２名
＜外部講師＞
　聖マリアンナ医科大学看護専門学校　非常勤講師
＜看護団体関係者＞
　神奈川県訪問看護ステーション協議会　副会長
＜学校保証人＞
　卒業生保証人
　在校生保証人
＜法人関係者＞
　聖マリアンナ医科大学　顧問
　聖マリアンナ医科大学看護専門学校　非常勤講師
　聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター長
　川崎市立多摩病院　看護部副部長
　本校同窓生
本校
　学校評価委員会　委員長　校長　　鈴木　昌子
　　委員　　副校長　井上　マユミ
　　委員　　２名
　学校職員　　９名

## １．３　事前配布資料

（１）　2023 年度　自己点検自己評価

（２）　2023 年度　自己点検自己評価改正の経緯

（３）　2023 年度　自己点検自己評価表の見方

（４）　2023 年度　自己点検自己評価結果

ア　過去 3 年間の大項目の推移、総括

イ　大項目別結果（評価平均点、要旨、現状と分析、今後の課題）

【参考資料】

資料１：看護学校組織図、2023 年度役割機能図

資料２：2023 年度　教員の属性

資料３：看護教員ラダー表

資料４：2023 年度　教員授業および実習担当時間

資料５：教育目標評価

資料６：2023 年度　カリキュラムアンケート

資料７：入学者数　卒業者数　卒業後の進路

資料８：入学志願者増加に向けた取り組みと今後の対策

資料９：国家試験対策年間計画

資料 10：看護師国家試験結果推移

【その他資料】

・　学習ガイダンス

・　シラバス

・　実習要領

・　学生便覧

## １．４　議事進行

| 時間 | 内容 | 担当 |
|---|---|---|
| 13：00　10 分 | 校長挨拶<br>・趣旨説明、会議の取りまとめ方、公表について<br>・参加者紹介 | 鈴木 |
| 13：10　40 分 | 2020 年度自己点検自己評価結果説明<br>・本校の状況<br>・分析と対策 | 井上 |
| 13：50　20 分 | 休憩 | |
| 14：10　20 分 | 学校内見学<br>教室・実習室・教務室など | 委員 |
| 14：30　30 分 | 意見交換　・説明についての質疑応答 | 司会：委員<br>書記：委員 |
| 15：00　45 分 | ・本日の評価実施から公表までの進め方<br>・評価実施 視点 | 司会：塚本委員長<br>書記：事務 |
| 15：50 | まとめ | 鈴木 |

## はじめに

聖マリアンナ医科大学看護専門学校は、教育理念「キリスト教的人類愛と生命の尊厳を基本とし、国際社会に貢献しうる看護実践者を育成する」に基づき教育を実施している。学校評価を定期的に行い、検証し、改善案を含め公表し、教育の刷新につなげている。 学校評価は 2009 年度から毎年実施し、学校専任教員が「自己点検自己評価」を実施している。その他「授業評価」「カリキュラム評価」「教育目標評価」などは聖マリアンナ医科大学看護専門学校の。学生が行っており、2018 年度からは学校関係者評価会議（評価者は本学関連の学外者による）を開催し、本年度で 6 回目を迎えている。本報告書は、2024 年 3 月 8 日に「2023 年度学校関係評価会議」として開催された委員会からの報告書である。

## １． 学校関係者評価会議報告書作成にあたって

本報告書は、聖マリアンナ医科大学看護専門学校（以下、学校）からの依頼により、学校関係者会議委員が作成したものである。

学校では、2023 年度学校関係者評価会議（以下、評価会議）の評価会議委員（12 名）の指名を行い、2024 年 3 月 8 日に評価会議を開催した。評価会議にあたっては、 学校評価に係る資料が事前に配布され、学校教員より学校評価結果について報告がなされ、その報告を基に評価会議委員で討議を行い、その結果を本報告書にまとめた。

## ２． 自己点検・自己評価について

### ２．１ 本評価の目的

本評価は、「看護教育を目的とした自らの教育活動、その他の学校運営について社会ニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さについて、評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること」を目的としている。

### ２．２ 評価方法と変更点について

今年度は自己点検自己評価表の「評価の視点・加点項目」の見直しを行い、実施し者の評価対象を明確にしている。評価尺度は前年度と同様、各項目を 4 件法にて評価している。

自己点検自己評価結果の分析には、昨年より導入した小項目ごとの評価タイプ分類によって、タイプ別に対策を講じている。さらに、昨年度と今年度の結果を因子分析し、学校運営への影響を与えている項目の抽出を行っている。

### ２．３ 評価結果

自己点検自己評価は 9 つの大項目に分別しており、3 年間の結果より、大項目の平均は全体に 0.8 ポイント上昇している。下降している項目は 2 項目であった。さらに自己点検自己評価は 9 つの大項目を 54 の小項目に細分化し、評価を行っている。小項目のタイプを因子分析による主成分分析を行い、課題となる 5 項目が抽出されている。タイプ別による分類から全体の課題として 3 つを上げている。１．多様なタイプの課題問題を抱える学生

への生活指導、後見人のニーズへの対応、カリキュラムの変更に伴う臨地実習の多岐にわたる対応等による教員の負担感の増加と時間調整の困難さ、２．看護系大学及び専修学校の増加が著しく本校がターゲットとする学生の焦点化が不十分なことによる募集活動への影響、３．新型コロナウイルスの感染状況へ翻弄され、5 類移行後の生活制限拡大等への課題の 3 点が報告された。

### ２．４　自己点検自己評価に対する質問

評価委員より①評価の客観性、②2023 年度重点課題項目への実施内容・評価について、③入学時学生数と卒業生数の割合の差の分析結果と対策について、④次年度、入試科目から英語を除いた理由について、⑤ボランティアなど地域活動報告について、⑥「研究」の体制構築のプロセスについて、以上の 6 点について質問があった。

質問の回答は、看護学校校長を含めた学校評価委員から行われた。質問の回答は、委員の評価に適宜記載する。

### ２．５　評価結果に対する協議

今回の評価について、以下の視点で協議を実施した。

① 自己点検自己評価は客観的に行われているか
② 自己点検自己評価の結果の内容が適切か
③ 自己点検自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
④ 学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

各視点の協議結果を以下に示す。

① 自己点検自己評価は客観的に行われているか

自己点検自己評価に対する質問 1 にも評価の客観性について質問があり、学校の看護教員による自己評価の結果について議論がなされた。看護教員が実施している自己点検評価は、学内の研究アドバイザーの助言を受け、昨年同様タイプ別評価を継続していることで、一定の客観性を担保する姿勢がうかがえる。

しかしながら、昨年度も評価者に非常勤の看護教員や学生からの評価についての意見が出ている。参考資料 6 の学生からのカリキュラムアンケートより、客観的な評価を取り入れられる土壌は整っている。以上の点から、学校の常勤看護教員以外の外部評価を加わることで、より客観性が得られると思われる。

自己点検自己評価は 8 つの大項目に大別し、それを 54 項目の小項目に分け、1 つの小項目ごとに複数の評価の視点を持って評価している。丁寧な評価であり、評価の視点を看護教員と確認を行い、評価を実施している。課題は導き出しているものの、課題数が多く、課題の焦点が曖昧な表現となっているため、課題の焦点化を行い、目標を明確にした課題設定が望まれる。

② 自己点検自己評価の結果の内容が適切か

今年度より、自己点検自己評価実施前に教員個々の評価の視点や加点項目に対する認識

の違いへの対応として、評価内容の表現を見直した後に自己点検自己評価を実施している点は評価できる。しかしながら、評価項目数が非常に多い点く、自己点検自己評価の視点として必要な内容であるかという意見があった。

看護教員は学生の多様化や、カリキュラムの変更に伴うカリキュラム再編などに多くの時間を割いている。このような環境においても、看護教員の丁寧な指導や学生の学ぶ姿勢の育成に対する姿勢は評価できる。さらに自己点検自己評価の視点は、小項目にこだわらず、学校の独自性を打ち出した項目になっている。

次年度の入学予定者数が大幅に減少した点については、評価の分析が曖昧であり、課題に具体性が乏しいといった意見があった。大項目Ⅶ地域社会/国際交流の平均点が低値については、受験から英語を削除した根拠について、学校の偏差値を参考に他大学の看護学部・他専門学校の入試科目の調査及び、昨今の入試傾向等による判断であり、明確な理由であると考える。

③　自己点検自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か

自己点検自己評価の大項目別に分析や課題の抽出が行われている。小項目は統合、小項目一つずつの検討を行うなど、多岐にわたって検討している。しかしながら、周知する、体制構築など具体性に欠けている項目が多い。すべての項目に対し、多くの課題を提示しているものの、課題提示の項目数が多いため、課題の具体性が乏しくなっている。到達目標まで提示した目標設定、目標達成の期間を長期設定で考えても良い項目もあると思われる。看護教員の研究活動については、外部環境を整えるだけでは個人の研究への着手までには至っていない。さらに、多様な学生への対応など看護教員の時間の確保が困難な状況であり。研究へ全教員の着手は困難との意見もあった。まずは、学校として、聖マリアンナ医科大学主催の学術集会への参加を促進する、以前行われていた、大学病院看護部との協働など、個人に委ねられている現状への検討も提案された。

ボランティアなどの地域活動に関する質問から、活動状況は事前配布資料で確認でき、結果と課題が適切である。しかしながら学生ボランティアの管理やボランティアの窓口の不明瞭など管理面への改善の記載が不十分であった。

④　学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

学校運営についても、改善に向け、様々な取り組みが行われているものの、次年度、入学志願者が著しく減少している点については、現行の方法以外にも手法に工夫は可能ではないかと思われる。現代の若者の傾向や社会情勢などを鑑みた広報活動の更なる検討を期待したい。看護大学と専門学校違いに対し、大学病院付属の専門学校という強みや看護の魅力をアピールするなど視野を変える必要があると考える。少子高齢化による若者の人口減少の影響は継続する事案であり、評価委員からは、若者の特性に応じた募集活動や、看護師の資格取得を目指した教育活動などさらにアピールすることに期待する。

## 3．　まとめ

2009 年度より、聖マリアンナ医科大学看護専門学校は毎年「自己点検自己評価」を実施している。2018 年度から「学校関係者評価」として、学外委員及び学内関連者を委員として選出し、毎年評価会議を開催している。「学校関係者評価」の継続的フィードバックに対し、学校は量的評価の導入による評価の公平性に努め、健全な学校運営を目指し改善を続けている。以上のことから、2023 年度「自己点検自己評価」は適正に実施されていると評価する。

ただし「自己点検自己評価」において、学校の常勤看護教員以外の外部評価は今年度も行われていない。評価の透明性という点からも、前向きな検討を期待する。

今年度で 6 回目の評価会議となった。特に今年度は評価の基準を明確に行ったことによる適切な指標による評価が行われ、多くの課題を提示していることからも、学校の改善への姿勢がうかがえる。今後も適切な学校評価を行い、本学校の教育のさらなる発展を期待する。